

Status of antimicrobial use among dentists in Japan

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2014-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 甘利, 悠 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001502

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1439 号

Status of antimicrobial use among dentists in Japan

(歯科領域における抗菌薬使用の実態)

甘利 悠 (あまり ゆう)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、医科の立場から全国の市中の歯科領域における抗菌薬投与の実態を初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。本研究では、歯科医師 500 名に対して抗菌薬の使用に関するアンケートを行った。その結果、50.4%から回答を得て、感染性心内膜炎予防のためのガイドラインよりも過剰な抗菌薬の予防投与が行われていることを明らかにした。抗菌薬は医科と歯科双方で処方されるものである。歯科診療においても市中診療所レベルでの診療がその多くの割合を占めている。ここでの抗菌薬使用の実態を明らかにすることは歯科領域全体での傾向を把握することにおいて極めて重要である。日本において、これまで、総合病院や大学病院での抗菌薬選択に関する研究はあったが、全国レベルで市中歯科診療所での抗菌薬使用を検討した研究はなかった。本論文は、抗菌薬の予防的投与と歯性感染症処置に伴う抗菌薬使用の両面で、全国の歯科診療所での抗菌薬使用の実態を明らかにしたものである。感染性心内膜炎の予防や昨今世界中で問題となっている耐性菌増加を予防するうえで、予防のためのガイドラインの周知や適切な抗菌薬選択に関するガイドラインの策定が望まれ、今後歯科と医科がより連携していくことが不可欠である。その点からも医科の立場からの本論文の意義は大きい。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。